

2020年のコミック市場規模発表

紙+電子で 23.0%増の 6,126 億円、統計開始以来史上最大

紙は 13.4%増、電子は 31.9%増

出版業界の調査研究機関である（公社）全国出版協会・出版科学研究所（所在地：東京都新宿区 理事長：浅野純次）は2月25日、『出版月報』2月号にて2020年（1～12月期累計）のコミック市場の統計を発表しました。紙と電子を合わせたコミック市場規模（推定販売金額）は前年比 23.0%増の 6,126 億円と、初めて6千億円を突破。ピークだった1995年の5,864億円を超え、1978年の統計開始以来過去最大の市場規模となりました。

□ 紙コミックスは 24.9%増の 2,079 億円、コミック誌は 13.2%減の 627 億円

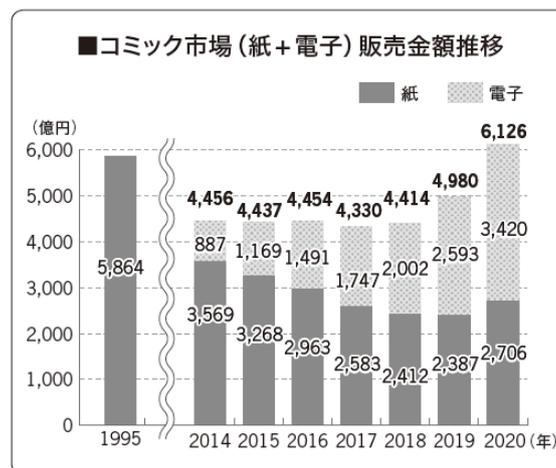
コミック市場の内訳は紙のコミックス（単行本）とコミック誌を合わせた販売金額が同 13.4%増の 2,706 億円、電子コミックが同 31.9%増の 3,420 億円。新型コロナウイルス感染拡大による巣ごもり需要で紙も電子も大幅な増加となりました。

紙のコミックスの推定販売金額は同 24.9%増の 2,079 億円、コミック誌は同 13.2%減の 627 億円。紙のコミックスは、社会現象化するほどのヒットとなった『鬼滅の刃』（集英社）が巣ごもり需要でさらに勢いを増したほか、同作の牽引もあって他のヒット作品にも波及、『鬼滅の刃』を除いても前年を上回る売れ行きとなりました。また、動画配信サービスの浸透でヒット作が長く売れる傾向が強まっています。一方コミック誌は読者離れに歯止めがかかっておらず、厳しい状況が続いています。

□ 電子は 31.9%増の 3,420 億円

電子コミック市場の推定販売金額は前年比 31.9%増の 3,420 億円。『鬼滅の刃』などのヒット作と巣ごもりによる新規ユーザーが拡大し、さらにユーザー1人当たりの購入金額も増加、1年で827億円も上乗せしました。“コロナ疲れ”もあり、異世界をテーマにした作品が人気のほか、電子書籍ストアオリジナル作品のヒットも目立っています。なお、巣ごもり需要で違法海賊版サイトのアクセス数も増加し、出版社や関連団体も対策を強化しています。

※電子出版市場規模は、読者が支払った金額を推計したもの。広告収入は含まない。



■コミック市場全体（紙版&電子）販売金額推移（単位：億円）

	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	前年比
コミックス	2,256	2,102	1,947	1,666	1,588	1,665	2,079	124.9
紙版 コミック誌	1,313	1,166	1,016	917	824	722	627	86.8
小計	3,569	3,268	2,963	2,583	2,412	2,387	2,706	113.4
電子コミック (電子コミック誌含む)	887	1,169	1,491	1,747	2,002	2,593	3,420	131.9
合計	4,456	4,437	4,454	4,330	4,414	4,980	6,126	123.0

<本件に関するお問い合わせ> ※本レポートの詳細は、『出版月報』2021年2月号（頒価2,200円）に掲載しています。

公益社団法人 全国出版協会・出版科学研究所 担当：柴田・水野

〒162-8710 東京都新宿区東五軒町6-24 TEL 03-3269-1379 FAX 03-3266-1855

<https://www.ajpea.or.jp>